

# 日本のジャーナルプラットフォームJ-STAGE - 今日の運用・提供から将来へ向けて -

2024年6月21日



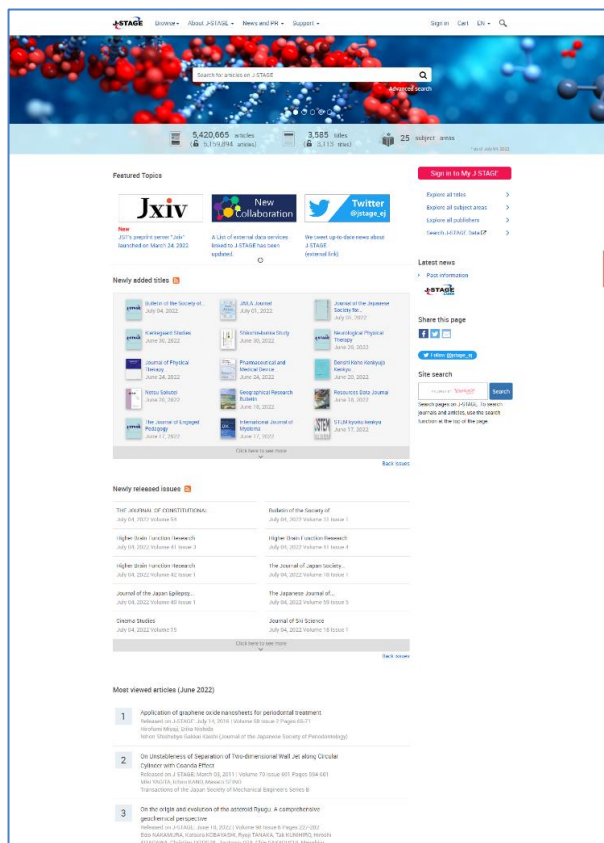
科学技術振興機構

# 目次

---

1. J-STAGEについて
2. J-STAGE中長期戦略改定
3. J-STAGE Data、Jxivについて

## 日本の学協会等が発行する学術ジャーナルの電子出版を担うプラットフォーム



- ◆ 1999年サービス開始
- ◆ 収録誌数 約4,000誌、収録記事数: 約560万記事  
(2024年6月現在、刊行終了誌や予稿集を含む)
- ◆ 年間ダウンロード数 426百万件 (2023年度)
- ◆ 8割以上のジャーナルが無料でアクセス可能

### 【目的】

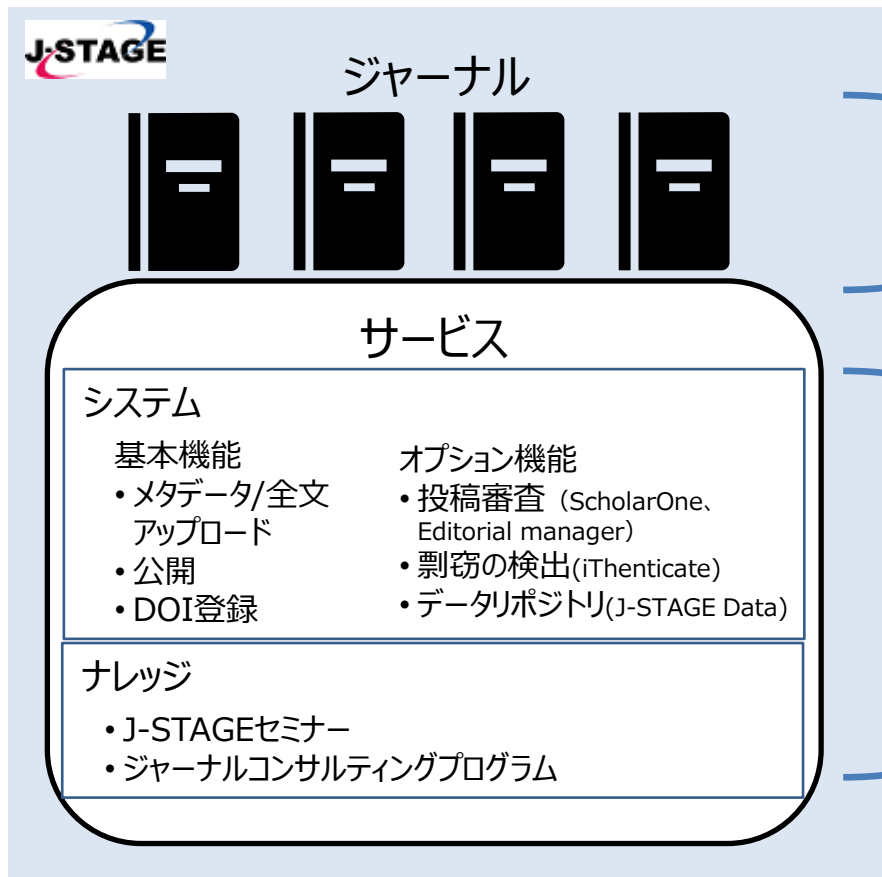
- ◆ 我が国の科学技術刊行物の国内外への情報発信及び流通を促進
- ◆ オープンアクセスを推進

学協会自らが学術論文の電子ジャーナル発行を行うための共同のシステム環境(プラットフォーム)を整備。我が国発の研究成果の国内外に向けた効率的な発信・流通を促進、国内学協会誌の品質とプレゼンスの向上に資する。

### 【役割】

- ◆ 発行機関(J-STAGE利用学協会等):  
ジャーナルコンテンツデータの作成・公開・運用
- ◆ JST: システムの開発・運用

# J-STAGEの機能と運用体制



## 発行機関

### 編集委員会の運営

- ジャーナルの方針策定
- コンテンツの責任
- 投稿受付・査読
- 出版 (pdf/XML化、J-STAGEへのアップロード、公開)
- 上記を含む出版費用の負担

## JST

### システムとサービスの開発・運営

- システム開発：新機能の企画、調達
- システム運用保守
- 外部サービスとの連携契約 (ディスカバリーサービス等)
- 発行機関によるジャーナル改善への協力
- 上記の費用負担

# J-STAGE事業の変遷①

ジャーナル電子化が主目的

1999年 J-STAGE～J-STAGE2:ジャーナルの電子化/流通促進が主目的 J-STAGE

2005年～2011年創刊号まで遡って電子化

Journal@rchive

2012年 J-STAGE3 Journal@rchiveサイトと統合  
デザイン・ユーザーインターフェースの刷新、XML形式対応  
2015年11月 登載対象コンテンツ拡大・Web登載機能追加。  
NII-ELSデータ移行  
2017年 新インターフェースを適用

2018年 ジャーナルコンサルティング パイロット開始

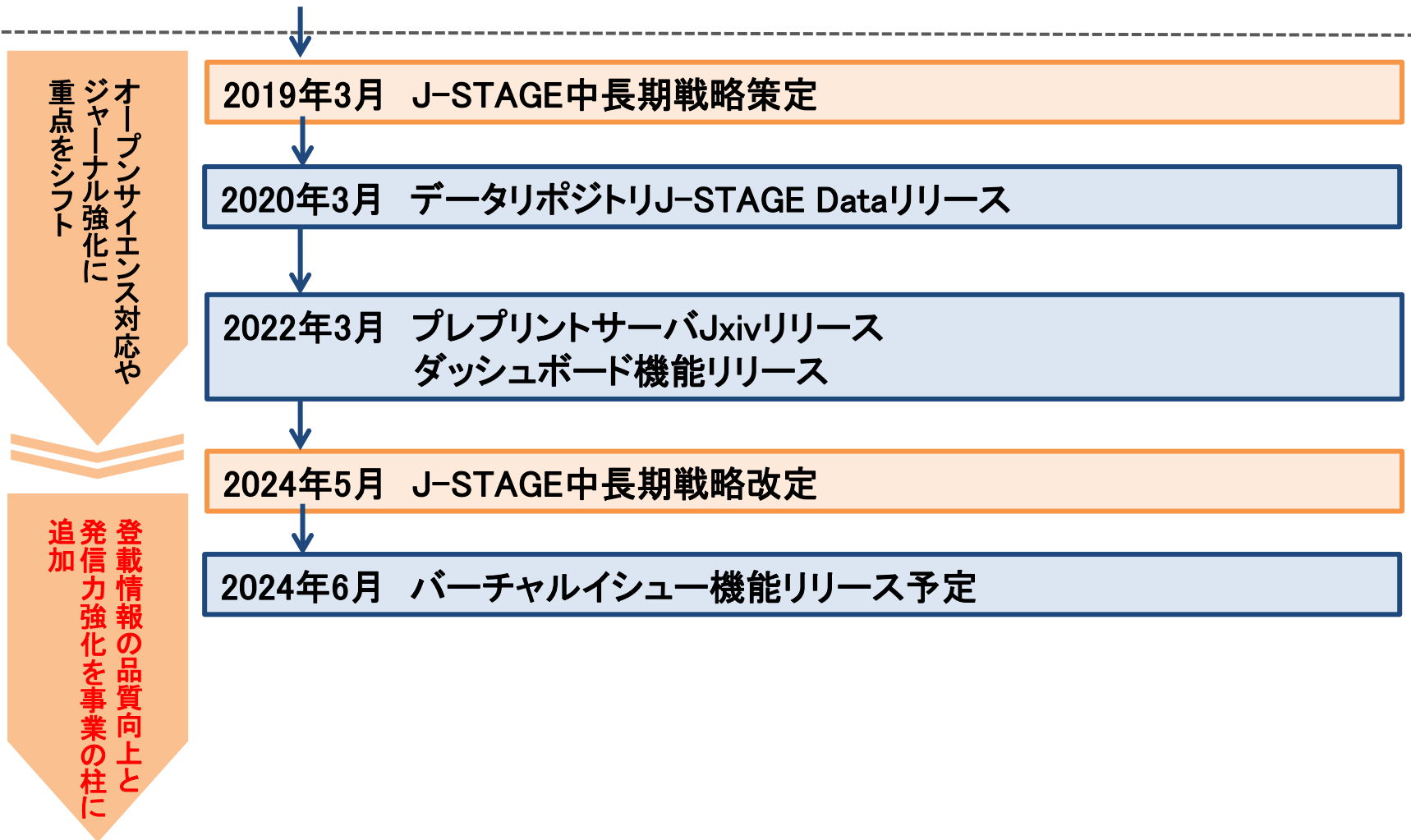
2019年3月 J-STAGE中長期戦略策定

2020年3月 データリポジトリJ-STAGE Dataリリース

2022年3月 プレプリントサーバJxivリリース

オープンサイエンス対応や  
ジャーナル強化に  
重点をシフト

# J-STAGE事業の変遷②



# J-STAGE中長期戦略の改定(2024)

ジャーナルを取り巻く環境の急速な変容に戦略的に対応する為、J-STAGE事業推進の基本姿勢及び施策を中長期戦略として取りまとめた(2019年3月公開)。本戦略の改定版を2023年度に有識者委員会にて策定した(2024年5月公開)。今後5年先までのロードマップも併せて公開する予定である。

## 【事業推進の基本姿勢】

基本姿勢1	電子ジャーナルプラットフォーム機能の維持及び新たな要請への対応
基本姿勢2	「我が国のジャーナルの強化」にかかる学協会との連携の深化及び共創
基本姿勢3	システム開発やサービス提供の手段の最適化によるJ-STAGEサービスの品質向上
基本姿勢4	登載情報の整備と積極的発信

## 施策の展開方向及び取組内容

- 1) 我が国の電子ジャーナルの基本的機能の開発及び維持
  - ・世界標準への準拠(全文情報のXML化、メタデータ充実)
  - ・コンテンツの保全、セキュリティの強化
- 2) 目的や状況に応じたジャーナルの強化
  - ・学協会との連携深化と関係機関も参加した先進的コミュニティ
  - ・目的や状況に特化した機能あるいはサービスの提供
- 3) 新たな時代の要請への対応
  - ・J-STAGEがカバーする研究ワークフロー及びコンテンツの拡大
  - ・研究成果の利用促進に資する取り組み
  - ・即時オープンアクセス化への対応

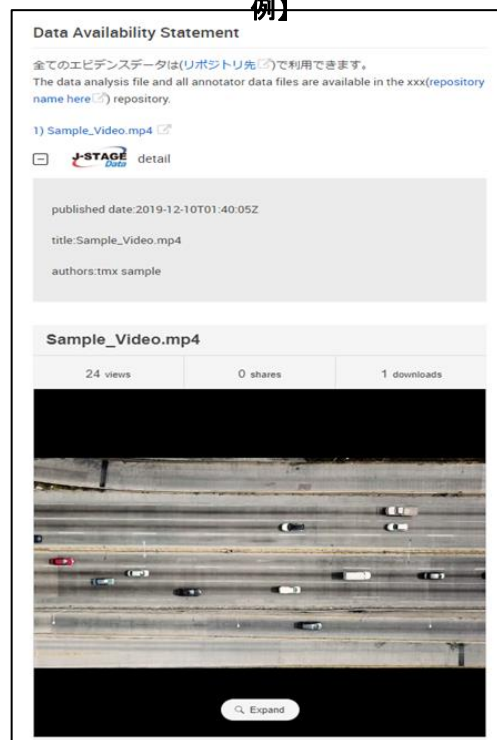
## 今後実施予定の取組

- ① 全文XML化推進、メタデータ充実
- ② オープンアクセス化対応
- ③ 投稿審査システムのサービス見直し

近年、国内の多くの大学や研究資金助成機関で、研究成果の根拠となる論文関連データ（根拠データ）の公開の推奨あるいは義務化の方針が策定されている。

こうした研究データのオープン化の動向を受け、J-STAGE 掲載論文の関連データを公開するプラットフォームとして「J-STAGE Data」の運用を2020年3月より開始

## 【J-STAGE論文におけるデータのプレビュー表示 例】



## 【J-STAGE Dataの主な特徴】

- ・J-STAGE 掲載論文と、J-STAGE Data 掲載の論文関連データはリンクしており、相互アクセスが可能
- ・海外で広く利用されているリポジトリ「figshare」のシステムを利用しており、国際的な情報発信力を強化
- ・公開データはすべてオープンアクセスで提供し、データへのDOI自動付与、ライセンス表示によりデータ利活用を促進
- ・J-STAGE Data 公開データを、J-STAGE の論文表示画面上でプレビュー表示(左図)するため、その場でデータ概観の閲覧が可能
- ・45ジャーナル、733件のデータを掲載(2024年3月末現在)



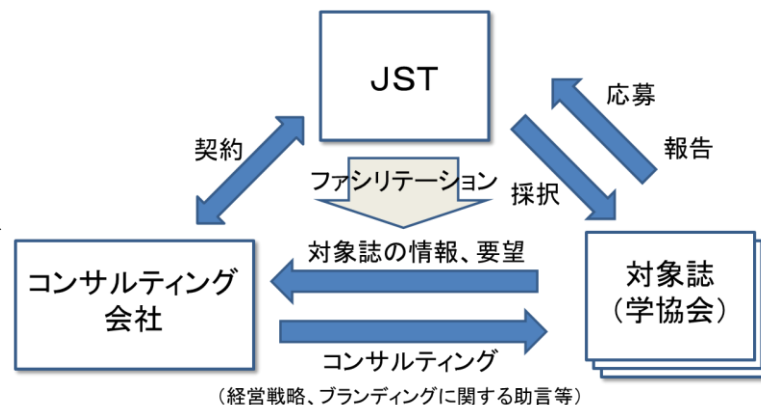
# J-STAGE登載誌 ジャーナルコンサルティング

国内研究者の研究成果の海外誌への流出や、欧州ファンド機関を中心とした「Plan S」署名機関による研究成果の投稿先がオープンアクセス誌のみ認められるようになるなど、国内外から投稿を呼び込むためのジャーナルの質向上が急務となっている。

本課題解決に向け、J-STAGE登載誌に対する個別のコンサルティングを通じてジャーナルの「質を向上」し、情報発信力を強化する

## 【実施内容】

JST及びJSTが委託する海外コンサルティング会社により、J-STAGE利用機関に対するコンサルティングを実施。(平成29年度よりパイロット的に実施。)



【2017,2018年度対象誌：5誌】

【2019年度対象誌：5誌】

【2020年度対象誌：20誌】

【2021年度対象誌：20誌】

- ・Annals of Clinical Epidemiology (日本臨床疫学会)
- ・International Journal of Affective Engineering (日本感性工学会)

【2022年度対象誌：20誌】

- ・Metallomics Research (日本微量元素学会)
- ・学術情報処理研究 (大学ICT推進協議会)

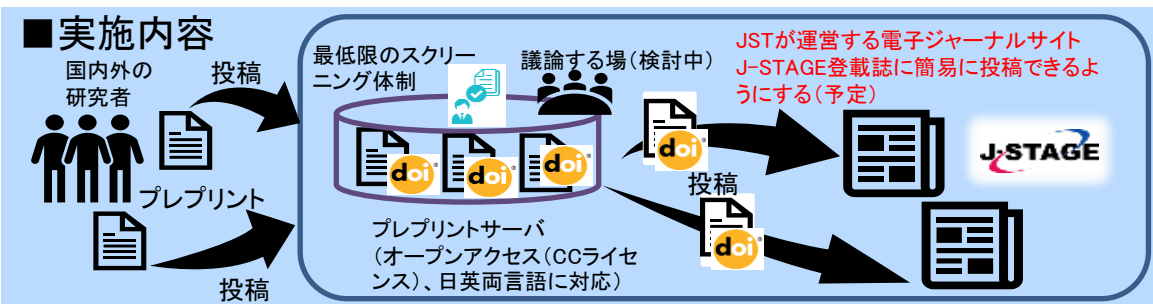
【2023年度対象誌：16誌】

- ・Nonlinear Theory and Its Applications, IEICE (電子情報通信学会)
- ・Physical Therapy Research (日本理学療法学会連合)

ジャーナルコンサルティングにより  
DOAJ※掲載された誌数：  
**29誌** (2023年度末時点)

※DOAJ (Directory of Open Access Journals)  
オープンアクセス誌のホワイトリスト

日本発の本格的なプレプリントサーバJxivを2022年3月24日に開始した。研究成果を早期に査読前原稿(プレプリント)の形で公開することにより、ジャーナルの出版プロセスを経ることによる成果公開の遅れというデメリットが補完され、**研究成果の早期実用化に繋げると共に、CCライセンスを付して公開し、オープンアクセスにも貢献する。**2023年度末に規約を改定し、論文種別の拡大を図り、査読コメント反映版や翻訳版などの投稿も受け付けている。



## ■実施内容

- 国が維持する事で、プレプリントサーバの継続した運営が可能となる。
- 緊急を要する課題については、査読を待たずにプレプリントで議論が進む現状から、知識連携プラットフォームにおける情報収集対象として、プレプリントに対応することは意味が大きい。
- J-STAGE参加学協会との協力によりスクリーニング体制強化を図ることも検討する。将来的には登録誌への投稿に繋げる体制を取ることで投稿論文の質を確保する。また、最低限のスクリーニングを実施。

## ■効果



- ◆ 公開記事数:310  
日本語論文158、英語論文152
- ◆ 累積ダウンロード件数:  
約10万件  
(何れも2024年3月末現在)

## ■Jxivの特徴

プレプリント(査読前論文)にDOIを付与し、オープンアクセスで公開する。全分野を対象に、日英両言語に対応。投稿者はresearchmapまたはORCIDのIDを所持する研究者に限定し、閲覧は、アカウント不要、無料で誰でも可能。

# 国内のオープンアクセスを取り巻く状況

2021年4月 内閣府「公的資金による研究データの管理・利活用に関する基本的な考え方」  
公的資金による論文のエビデンスとしての研究データは原則公開とする。

2023年5月 G7広島サミットおよびG7仙台科学技術大臣会合の共同声明に、公的資金による研究成果への即時オープンアクセスの支援を含むオープンサイエンスの推進が盛り込まれた

2023年6月9日 閣議決定「統合イノベーション戦略2023」  
「我が国の競争的研究費制度における2025年度新規公募分からの学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた国の方針を策定する」

2024年2月16日 統合イノベーション戦略推進会議決定  
「学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針」

- ・ 公的資金のうち2025年度から新たに公募を行う即時オープンアクセスの対象となる競争的研究費を受給する者(法人を含む)に対し、該当する競争的研究費による学術論文及び根拠データの学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤への掲載を義務づける
- ・ 学術プラットフォームに対する大学を主体とする集団交渉の体制構築を支援し、交渉の取組を通じて研究コミュニティの経済的負担の適正化を図る
- ・ 機関リポジトリ等の情報基盤とは、研究データ基盤システム(NII Research Data Cloud)上で学術論文及び根拠データが検索可能となるものとする
- ・ FAIR原則に沿ったオープンサイエンスの推進のため、学術論文及び根拠データの即時オープンアクセスに関する国際連携を進める
- ・ オープンアクセスは研究成果の発信力の向上等のために行うものであることを認識し、既存の研究費や採択件数を圧迫しないよう留意する

# J-STAGEにおけるオープンアクセス化対応

- 2024年5月に公開された「我が国のジャーナルの振興に向けたJ-STAGE中長期戦略(改定)」において、即時オープンアクセスへの対応として「…研究者、所属機関がこの義務を履行できる条件を、オープンアクセスポリシーの明確化によって各ジャーナルが整えることを利用規約において求め、その実現のための情報提供を行う」と記載

# J-STAGEにおけるオープンアクセス化対応

## ➤ 論文

- 発行機関に対する即時オープンアクセス化への対応に関する情報提供（説明会、ドキュメント等）（対応予定）
- ジャーナル情報の充実化（オープンアクセスに関するジャーナルポリシー情報）と公開（対応予定）
  - J-STAGE内でオープンアクセスに関するジャーナルポリシーを確認可能に
  - ジャーナルポリシーデータベースとの連携等も検討

## ➤ 研究データ

- J-STAGE Dataによる論文根拠データの公開及びNII RDCへのデータ連携（対応済み。体系的メタデータ項目を連携できるよう対応中）

ご清聴ありがとうございました